

2024年7月4日

共同発表

公益社団法人日本動物園水族館協会（会長：村田浩一）
学校法人 法政大学（自然科学センター・国際文化学部 島野智之）
兵庫県立こうのとり郷公園（園長：下久隆史）
人間環境大学（環境科学部：岡久雄二）
NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄（理事長：長嶺隆）

ブータンに生息する絶滅危惧種シロハラサギの人工孵化・育雛に成功しました！ ～シロハラサギの絶滅回避に向けた支援活動の成果～

公益社団法人日本動物園水族館協会（会長 村田浩一、以下；JAZA）は、ブータンに生息する絶滅危惧種シロハラサギ（※1）について、シロハラサギ保全チーム（代表 法政大学 島野智之教授）（※2）およびブータン王立自然保護協会（※3）の要請を受け、JAZA コウノトリ・トキ・サギ類の飼育繁殖を専門とする会員（加盟）園館職員をブータンに派遣しました。

このほど、ブータン王立自然保護協会のシロハラサギ保全センター（※4）で、2024年6月までにシロハラサギの人工孵化・育雛に成功し、2羽が成育しましたのでお知らせします。

同国で同種の人工孵化・育雛が成功したのは2011年の1例に続いて今回が2例目となりますが、2021年にシロハラサギ保全センターが設置されてからは初めての人工孵化・育雛の成功となります。

JAZAでは、引き続きシロハラサギ保全チームと連携し、ブータンにおける同種の飼育下繁殖の取組を支援していきます。

なお今回の支援は、「公益信託サントリー世界愛鳥基金」および「TOYO TIRE グループ環境保護基金」からシロハラサギ保全チームへの助成により行われおります。

(1) 経緯

- ・ シロハラサギ保全チームのメンバーが2023年に現地を訪問。野外巣から採取した卵を用いた人工孵化・育雛が成功していないことを把握。人工育雛の技術支援が必要と判断しました。
- ・ シロハラサギ保全チームが国内のコウノトリ・トキ・サギ類の飼育繁殖の専門家に協力を要請。
- ・ 専門家が所属する兵庫県立コウノトリの郷公園、日本動物園水族館協会、法政大学、人間環境大学、NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄が下記の支援を実施。

(2) 支援内容

- ・ 野外巣から採取した卵をシロハラサギ保全センターまで輸送するための「携帯型孵卵器」の提供
- ・ 人工孵化・育雛手順書の改定
- ・ 保温が可能な人工育雛ケージの提供
- ・ 人工孵化・育雛のために必要なビタミン剤、カルシウム剤、その他資材の提供
- ・ インターネット・オンライン会議システムを活用した経常的なブータンと日本の報告、相談。アドバイスと
- ・ 現地を訪問しての直接的な支援（孵化直後の育雛管理、応急処置、死亡個体の解剖、サンプル採取など）

(3) 現地派遣者

- ・ 第一陣（2024/3/25～3/31）
埼玉県こども動物自然公園 高木嘉彦 副園長（獣医師）
横浜市立よこはま動物園・繁殖センター 白石利郎 飼育職員
- ・ 第二陣（2024/4/11～4/18）
法政大学 島野智之 教授
兵庫県立コウノトリの郷公園 松本令以 主任研究員（獣医師）

(4) ブータン側のコメント

日本からの支援チームは全員が専門家として2024年に新たに2羽のヒナの人工育雛のために、その専門知識で多大な貢献を下さいました。専門的な知識だけでなく、シロハラサギの人工繁殖プログラムを支援するために有用な様々な実験材料を寄贈し、繁殖者の能力向上を支援して下さいました。シロハラサギの保護への揺るぎないご支援と、ボランティアベースで私たちを助けるために多大な努力を払っている貴チームのメンバーの献身的な努力に本当に感謝しています。

さらに、私たちのスタッフを2名研修に受け入れてくださるというご厚意にも感謝しています。彼らはとても熱心で、そこから多くのことを学ぼうとしています。あなたのチームがきっと彼らに必要な技術的能力を与えてくれると期待しています。この支援活動は、RSPNの歴史に永遠に記憶されることでしょう。ブータン王立自然保護協会は、ブータンおよびこの地域におけるシロハラサギの個体数を復活させる長期的な計画を持っており、日本の専門知識による更なる関与と支援は極めて重要であると確信しています。改めて心よりの感謝を申し上げたいと思います。

(5) 新たな取り組み

①国内研修の実施

6月/29日（月）～7月/12日（金）にシロハラサギ保全センターから2名の職員が来日し、東京都恩賜上野動物園、東京都多摩動物公園、兵庫県立コウノトリの郷公園で鳥類の飼育・獣医診療等に関する研修を実施。このうち兵庫県立コウノトリの郷公園当園では、7月/7日（日）～7月/12日（金）に、コウノトリの飼育、繁殖、足環装着、治療、野生復帰などについての研修を行います。

②シロハラサギ保全ワークショップの実施

7月/6日（土）に恩賜上野動物園において、国内動物園関係者等を対象にしたワークショップを実施予定行います。

(6) 用語解説

※1 シロハラサギ (英名 White-bellied heron)

国際自然保護連合 (IUCN) が作成したレッドリストで「絶滅危惧種 (CR)」に分類される世界的に希少なサギ類の一種で、インド、ブータン、ミャンマー、バングラデシュなどに生息している。世界全体の個体数は 60 羽以下とされており、ブータンでは約 20 羽が確認されている。サギ類の中では世界で 2 番目に大きく、翼長 100cm、翼開長 210cm、体重約 3kg、起立姿勢での頭高 125cm。

※2 シロハラサギ保全チーム

法政大学、東邦大学、人間環境大学、国立科学博物館、国立環境研究所、NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄の研究者や獣医師で構成される任意団体。2019 年からシロハラサギの保全活動を支援している。代表は法政大学・島野智之教授。

※3 王立自然保護協会 (RSPN : Royal Society for Protection of Nature)

ブータン王国第 4 代国王の勅命のもとで 1987 年に設立された非政府組織。

※4 シロハラサギ保全センター

RSPN が 2021 年に同国チラン県に設置したシロハラサギ飼育繁殖のための拠点施設。現在 5 羽のシロハラサギを飼育している (今回成育した 2 羽を含む)。

(7) 写真



シロハラサギ (シロハラサギ保全センターで飼育されている個体)



今回、人工孵化したシロハラサギの雛



成育したシロハラサギのうちの1羽



シロハラサギ保全センターでの研修

【本件に関するお問い合わせ先】

埼玉県こども動物自然公園 副園長 高木 嘉彦

(JAZA 生物多様性委員会ツルコウノトリキジ類別部会部員)

TEL0493-35-1237 Fax0493-35-0248

E-mail : takagi@parks.or.jp